



友愛の森(二中だより)



学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造
令和7年5月1日発行

「挨拶」の意味

校長 山元 勝久

4月の全校集会では、「挨拶」について以下の話をしました。

【皆さんはコンビニで店員さんがしてくれる挨拶に、挨拶を返しますか？】

「返す」という人は、挙手してください。・・・(3割ほど挙手)
「返さない」という人は、挙手してください。・・・(2割ほど挙手)

かくいう私自身も「大した買い物でもないのに、そこまでしなくても」「店員さんだって、マニュアルとして言っているだけだから」「なんとなく恥ずかしい」という思いから、挨拶を返すことはしてきていませんでした。しかし、何か心がモヤモヤとスッキリしない気持ちになっていました。

なぜ、そんな気持ちになるのか？これは、きっと【相手のことを無視している】からです。『無視をする自分』に後ろめたさを感じているのだと気付きました。相手は無視するという行為に慣れていってしまうのは、人として悲しいことです。この様に考えるようになってから、私は店員さんが挨拶をしてくれたら必ず返すようにしています。

「挨拶」の「挨」という漢字は、もともとは「打つ」とか「押す」といった意味を持っています。また「拶」は、「近づく」「進む」という意味を持っています。ですから「挨拶」は、仮に人と人の間に扉があるとしたら、その扉をノックして相手と心を開き合い、お互いを理解し合っていくための第一歩ということになります。「お互い良い関係を作っていきましょう。」という意思表示なのです。恥ずかしかったり、面倒くさがったりして、しっかり挨拶を声に出せない人もいると思いますが、挨拶をしっかりしない、返さないということは、「あなたとは関わり合いたくない」と言っているのと同じなのです。

挨拶がしっかりできることも「二中文化」の一つだと、誇りに思っている生徒の皆さんがたくさんいます。ぜひ、挨拶の意味や価値についても深く理解できている二中生であってほしいと思います。

全校集会で上記の話をしてから、私にも挨拶をしてくれる生徒が増え、とても嬉しく思います。

「ハロー (Hello) 」 「ニーハオ (你好) 」
「アニョハセヨ (안녕하세요) 」 「ボンジュール (Bonjour) 」

外国語を覚えるとき、まず、最初に覚えるのはやはり「挨拶の言葉」からです。見知らぬ人や店員さんに挨拶を返すことは難しいとしても、様々な指導に来て下さる講師の方々、地域で見守りや協力をして下さっている方々に対しては、自分から挨拶ができるよう指導していきたいと思っています。

生徒会入会式（4月10日）「学校生活は生徒の手で」そんな想いが感じられる学校紹介でした！



新年度、新しい学年となり、3年生は学校のリーダーとして、2年生は中堅学年としての意気込みを感じる入会式でした。これから、修学旅行や自然教室でもその意識をさらに高めていってほしいと思います。また、1年生は、希翔セミナーを通して、富士宮二中生としての姿勢を学び、中学校生活を充実するものにできるようにしてほしいと願っています。

学級委員辞令交付式（4月22日）学級委員のみなさんよろしくお願いします！

令和7年度前期学級委員のみなさん

- 【1年生】小川陽夏子さん 小田部秀さん 田村 葵さん 渡邊豪貴さん 旭 月嶺さん 佐野陽奏さん
 【2年生】高山実衣子さん 谷口獅恩さん 海野絢音さん 眞 理人さん 石川結衣さん 遠藤 奨さん
 【3年生】土屋 源さん 望月翼沙さん 深澤実結さん 堀内遥太さん 赤池龍征さん 田邊結彩さん



富士学ガイダンス（4月24日）「主体的な学び（学び方）」について学びました。

「富士山学習」について、自分たちが行ってきた活動を、1年生に「学びの流れ」を理解してもらおうことを意識して分かりやすく伝えました。また、「福ろう製作所」の紹介では、これまでに 取り組んできた切り絵による作品をもとに、福ろう製作所の活動内容を発表しました。



【編集後記】（教頭 伊山）

学校だよりを編集していると、生徒たちが少しずつ成長していることに気がきます。今月は、全学年、宿泊を伴う学年行事があります。行事を通して、友達との「今まで知らなかった良さ」に気付いたり、自分の「自分でも知らなかった力」を発見したりして、大きく成長してほしいと願っています。